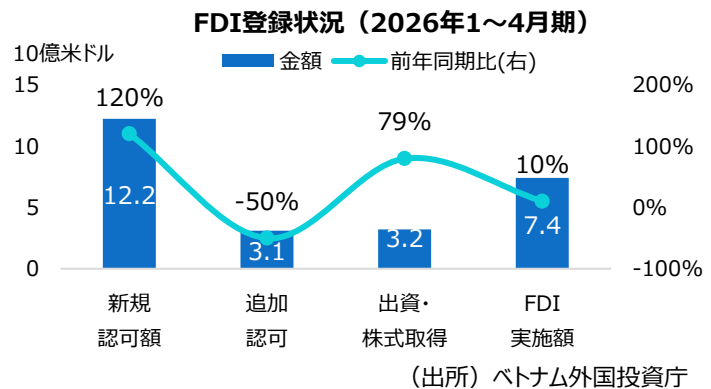


<ベトナム・リサーチ・レポート>

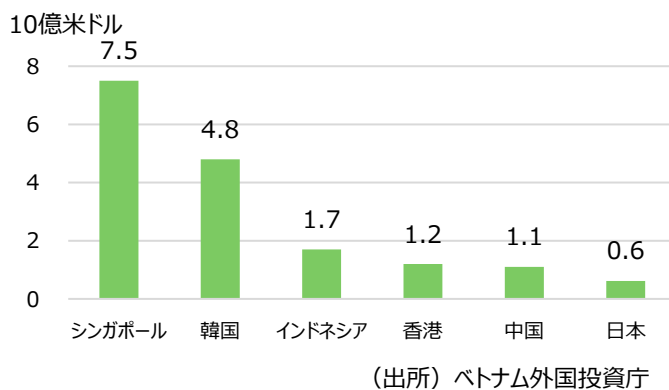
ベトナム 2026年1～4月期 FDI 急拡大

ベトナムの2026年1～4月期FDI（海外直接投資）認可額は前年同期比 35.5%増の 187 億米ドルに急拡大した。また、同期の FDI 実施額は同 9.8%増の 74 億米ドルと推計されており、海外投資家からの資金投入が依然として活発であることが示された。

FDI 認可額の拡大は主に新規認可の大幅増に牽引されており、その額は前年同期比約 120%増の 122 億米ドルに達した。出資・株式取得は、同 79%増の 32 億米ドルに達し、海外投資家が既存企業を通じて市場に参入する傾向を反映したものである。一方、追加認可は同 50%減の 31 億米ドルにとどまった。



投資国・地域別FDI認可額（2026年1～4月期）



業種別では、加工・製造業が FDI 認可額の 58.8%に相当する 110 億米ドルとなり、引き続き最大であった。このことから、製造業のグローバル・サプライチェーンにおいて、ベトナムが中核的役割を担っており、魅力的な投資先であることが改めて印象付けられた。このほか、エネルギー・水道等（24 億米ドル）、卸売・小売（20 億米ドル）、不動産（13 億米ドル）、情報通信（7.3 億米ドル）なども大規模投資となった。

投資国別では、シンガポールが最大の投資国であり、韓国がそれに続いた。投資先地域では、タイグエン省（北部）やホーチミン市が上位であった。タイグエン省では韓国鉄鋼大手ポスコによるリチウムイオン電池用電極製造プロジェクトなどが全体の伸びを牽引した。

高成長率を達成しているものの、地政学的紛争、コスト増、貿易政策の変動などのリスクが依然として存在し、業種や地域ごとに偏りが見られたことから、外国投資庁は投資水準の持続性について慎重な見方を崩さず、投資環境の改善、投資促進の質的向上、地方の資金吸収力の強化など、持続的成長に向けた課題を挙げている。

グエン・バン・タン副首相は、5月13日開催のフォーラムの中で FDI における国内企業との連携の弱さや国産部材使用比率の低さを課題として挙げ、国内企業との連携強化のほか、ハイテク、イノベーション、環境保護を重視することや、研究開発や人材育成、環境技術、デジタル経済分野への投資も促進していく方針を表明した。

<免責事項>

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。